

令和7年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

施設名	新潟市中之口農業体験公園		
管理者名	NPO法人はぎなみき中之口	指定期間	令和7年4月1日 ~ 令和12年3月31日
担当課	西蒲区産業観光課		
所在地	新潟市西蒲区東小吉775番地1		
根拠法令			
設置条例	新潟市中之口農業体験公園条例・新潟市中之口農業体験公園条例施行規則		
施設概要	敷地面積：37,304㎡ 公園区域 大型複合遊具・観察舎・東屋2棟 農園区域 市民農園・体験農園・堆肥舎 エントランス区域 管理棟 木造平屋(研修室、休憩室、更衣室、トイレほか) 交流棟 木造平屋建（調理実習室、交流スペース）		

施設設置目的
中之口地区のもつ地域資源を活用し、農業体験の機会及び自然生態系に配慮した憩いの場を提供することにより、都市と農村の交流を推進し、もって地域の活性化を推進する。
管理・運営に関する基本理念，方針等
・多くの方に当施設を利用してもらうため、農業体験や農産物・特産品などの情報発信をし、さらに施設機能を有効に活用したPRに努め、農業体験公園の利用者の増加を図る ・施設の管理にあたっては、利用者が平等かつ公平に利用ができるように配慮し、工夫に心がける。 ・施設管理運営にあたっては、施設の効用を最大限に発揮できるように努めるとともに、管理経費の節減が図れるように最大限努力する。 ・施設管理者に対しては、常に安全管理・衛生管理に配慮するとともに、緊急時における連絡体制づくりを徹底する。 ・施設利用者の利便性向上のために、職員研修等（接客・消防訓練）を実施し、サービス体制の充実を図る。

視点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市民	広報の充実	ホームページ等での情報提供を月1回以上更新	月平均2回	B	
	施設利用者(年)	・40,000人以上	29,689人	C	目標には届かなかったが、昨年度比増加となった点は評価する。さらなる改善を期待する。
	貸室使用件数(年)	・100件以上	49件	C	使用件数を高めるため、施設の設置目的に合致した効果的な工夫を期待する。
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が80%以上	100%	B	
	施設PRイベント参加者数	・350人以上	4,340人	A	魅力的なPRイベントを実施し目標を大幅に上回る参加者数となった点を評価する。
財務	市の収支	使用料収入を年間300千円以上	200千円	C	利用促進を図り改善に向かうようさらなる工夫を期待する。
業務	設置目的に合致したサービス提供	利用促進に繋がるイベントを大小含め6件以上実施する。	14件	B	
	業務仕様書等に定める事項の遵守	業務仕様書等に定める事項の遵守	適正に遵守	B	
	事件・事故発生時の対応の適切さ	事故及び災害発生時に適切な対応ができるよう連絡体制の整備と防災訓練の実施	適正に遵守/ 1回実施	B	
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に遵守	B	
	配置人員のスキルの習得度	職員研修を年1回以上実施	1回実施	B	
	賃金水準スライド額の従業員への還元	賃金水準スライド額の従業員への還元	適正に還元	B	

【評価基準】

A:要求水準(評価指標)を達成し、かつその達成度・内容が優れている

B:要求水準(評価指標)が達成されている

C:要求水準(評価指標)が達成されていない

※評価について、「A」を付ける場合は「優れている点」を、「C」を付ける場合は「達成されていない点」を、「評価コメント」欄に明記してください。(評価指標が達成されているだけなら「B評価」で、その達成度や内容が優れていない)

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

(アピール事項)

年間来園者数は29,689人となり、前年度24,432人から5,257人(約22%)の増となった。にしかんマルシェを年2回開催(4月1,487人・11月2,607人)したほか、夕涼みフェス・クリスマスマーケット・餅つき大会等の季節イベント、パークヨガ等の定期イベントを実施し、利用促進に繋がるイベントを開催したことが主な要因だと考えている。また、SNSを活用した広報活動により、これまでのイベント参加者層とは異なる親子世代にアプローチできたことも大きな要因である。他方で、事件・事故の発生は0件であり、安全性にも配慮した運営を行ってきた。

(改善策)

施設利用者数・貸室使用件数・使用料収入が未達成となった。貸室は利用が特定の団体・時期に偏っており、地域住民の活動拠点としての認知が不足している。地域団体への利用案内と初心者向け体験講座等により通年での利用機会を創出し、来園者の増加と使用料収入の確保につなげていく。

所 管 課 に よ る 総 合 評 価 (所 見)

目標未達項目もあるが、受託者の創意工夫によるPRイベントの実施やSNSを活用した広報などにより、着実に来園者数の増加へと繋がっている点は評価できる。また、昨年度までの改善点を踏まえ新たな参加者層へのアプローチを実施し、利用者層の裾野を拡大した点も評価する。

今後は、改善策にある施設利用・貸室使用について、利用者・参加者および地域住民のニーズを分析し効果的な利用機会の創出に取り組み、来園者数の増加と使用料収入の確保を目指すとともに、引き続き公園設備全般の適時適正な管理運営が行われるよう期待する。